

地方市部における地域子育て支援拠点事業施設の実践

多田幸子

キーワード：地域子育て支援拠点事業施設 地方市部 子育て

要 約

本研究では、地方市部の地域子育て支援拠点事業を行う施設の取り組みに焦点を当てた。訪問調査を行うこととし、東広島市の複合商業ビル内に開設されたゆめもくば、熊本市の美術館内に開設された街なか子育てひろばを調査対象に、現地において事業実施者からの聞き取りを行った。実際の支援施設に赴き調査を行った結果、先述した 2 つの子育て支援施設には、施設利用者に対する職員の関わりにおける配慮と、利用者が過ごす施設の内部の構造において類似点が推察された。特に、施設の構造については、それぞれの施設が設置された場所の有するパブリック性が関係している可能性があると考えられた。

目的

親は子どもの存在によって「育てられる者から育てる者へ」と移行し(鯨岡, 2002), 子どもの世話やしつけの方法だけでなく, 自らの経験をとらえ直したり, 認識を転換したりする機会を得て, 人間的な成長を遂げる(若本, 2008)。このような, 親における変化・発達が生起するような子どもとの関わりが, 子どもの命を守り育み, 最終的には分離・自立へと向かわせる(武内, 2002) ことに繋がる。子どもとともに親も成長していけるような子育ては, 個々の家庭の中だけで達成されるわけではない。子育てにおいては, 親が「ひとりぼっち」でなく「他の親や子どもたち」と「広いかかわり」を持つ等(Butterworth & Harris, 1994/1997), 家庭外での社会的関係を築けるような, 日常生活をおくる地域に「共に育つ場, 共に育てる場」(無藤, 2009)を有しているかどうかが重要な意味を持つ。

こういった子どもと親の成長を支える場を整え, 広げていくことは, 少子化や核家族化が進行する中での子育てに, 有効な支援を行うにあたっても重要であり, 日本では平成 19 年度以降, 国の施策として「子育て家庭が歩いていける身近な場所に親子で集まって交流や相談ができる」場を拡充するための地域子育て支援拠点事業が進められている(厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室, 2007; 厚生労働省雇用均等・児童家庭局, 2015)。平成 27 年度の時点で, この地域子育て支援拠点事業(以下では拠点事業とする)は, 子ども・子育て支援交付金交付決定ベースに基づく日本全国で 6,818 ヶ所で開催されており, 集計結果がまとめられるようになった平成 21 年度時点での 5,199 ヶ所から 6 年間で, およそ 1,600 ヶ所の増加が認められた(厚生労働省, 2016a)。しかし, いまだ, 子育てを支えるための

地域の環境の醸成（橋本, 2014）は実現の途上とされ、0-2 歳児を育てる母親 1500 人を対象とした調査を見ると、5 人に一人の母親が地域に子どものことを気にかけて声をかけてくれる人が一人もいない状況で子育てをし、首都圏よりも地方市部において子育て中の母親同士が気軽に話す相手が少ない傾向が示される等している（ベネッセ次世代育成研究所, 2011）。こういった状況からは、親子の成長に寄与するような地域子育て支援の実施は、継続して取り組むべき課題の一つであり、それゆえに、拠点事業の実施状況や実態に関する調査・検討を積み重ねていくことの必要性がうかがわれる。特に、その地域において子育て中の親子と多様な世代・立場の人々との接点となりうる、地方市部の先進施設の取り組みからは、子育て支援環境の醸成に関する一助となる知見を得られるであろう。

以上から、本研究では、地方市部において子育てや子育て支援の当事者以外にもアクセスし得る場所で開設される地域子育て支援事業施設に焦点を当て、現地を訪問し、事業従事者から支援の現況を聞き取ることを通して、親子が地域の中で社会的関係を広げるにあたっての支援の肝所を考察することとした。そこで、具体的には、広島県東広島市の商業ビル内に設置された「キッズプラザひがしひろしまゆめもくば」と、熊本県熊本市の美術館施設内に設置された「街なか子育てひろば」へ訪問調査を実施した。

方法

1. 期間

訪問期間は 2016 年 3 月 22 日・23 日の 2 日間であり、同年 22 日 10:30-14:30 に広島県東広島市のキッズプラザひがしひろしまゆめもくば（以下ではゆめもくばとする）を、同年 23 日 10:00-12:30 で熊本県熊本市の街なか子育てひろばを訪れた。

2. 対象施設

以下に本調査における対象となった拠点事業を実施する施設の概要を示した。

1) ゆめもくば

2005（平成 17）年 4 月より、東広島市西条町にて特定非営利活動法人「子育てネットゆめもくば」が開設・管理・運営を行う拠点事業施設である。「おやこひろば ゆめもくば（以下ではおやこひろばとする）」として開設されていた時期を含めると 10 年を超える実績を有する。「民間で開設された子育て支援スペース」が「全国でもまだ珍しい存在」であった頃から、「地域の子育て・子育て環境を良くすることにどう貢献できるか」に焦点を当てた取り組みを行っている（村若, 2015）。

2) 街なか子育てひろば

2014（平成 26）年 6 月より、熊本市子ども支援課と熊本市現代美術館が管理・運営を行う拠点事業実施施設である。その歴史はまだ浅いが、美術館内に開設された児童福祉法に基づく拠点事業施設としては全国初となる（吉坂, 2016a）。美術館内に位置することを活かして、美術館との協力関係の中で子どもや親子を対象とした内容を企画する等、美術作品を中心とした文化財に関わる専門職との連携が図られて

いる。

3. 手続き

上述 2 ヶ所への訪問は、本稿筆者 1 名が各施設に了承を得た上で実施した。あらかじめ、それぞれの施設における支援の現況に対する基本的な質問事項を定め、要望に応じて対応担当者に事前に質問事項を連絡し、当日はその質問事項に基づくインタビューを行い、対応者からの回答を聴取した。

従事者からの回答や説明は訪問者が筆記し、施設設備に関する説明を受けた際には許可を得て写真撮影を行った。訪問時のメモは、訪問時に提供された事業に関連する印刷資料や撮影した写真を参照しながら、後日に文章として記述しなおした。記述内容については、各施設の訪問当日の対応担当者に確認を依頼し、表現等の加筆・修正を行った。また、訪問時の対応者名については了承を得た上で記載した。

結果

本研究における訪問調査の結果は、訪問先の施設ごとに下にまとめた。

1. ゆめもくば

1) 対応者

金口克子氏(子育てネットゆめもくば副理事長)、森川敬子氏(専任職員)。

2) 訪問調査概要

(1) **東広島市** 県のほぼ中央部、広島市の東に隣接し、北は安芸高田市と三次市、東は三原市と世羅郡世羅町、南東は竹原市、南西は呉市、安芸郡熊野町とそれぞれ接している(東広島市、2015)。西条・八本松・志和・高屋・黒瀬・福富・豊栄・河内・安芸津の 9 町で構成され、東広島市ウェブ

サイト「東広島市のプロフィール 沿革」より、「官民の学術研究機関の集積や企業の立地が進む等、全国でもその成長が注目」されている。

人口に関しては、東広島市がウェブページ上で公開する人口・世帯数に関する「2016(平成 28)年度大字別人口及び年齢別人口等」および「2015(平成 27)年度大字別人口及び年齢別人口等」より、2016 年 3 月 31 日現在の総人口は 184,929 人であり(2015 年 3 月末時点より 755 人増)、そのうち 0・4 歳代の人口は 9,172 人、世帯数については 2016 年 3 月 31 日現在で 80,930 世帯である(1269 世帯増)。出生数については東広島市がウェブページ上で公開する「統計でみる東広島 2015」より 2014(平成 26)年度時点で 1 日あたり 4.9 人である。

乳幼児健診受診状況は、「統計で見る東広島 2015」および「平成 26 年度地域保健・健康増進事業報告の概況地域保健編(厚生労働省、2016b)」より、2014(平成 26)年度の 1 歳 6 ヶ月健診では対象者の 96.4%が受診し(全国平均 95.5%)、3 歳児健診では対象者の 95.2%が受診している(全国平均 94.1%)。

地域子育て支援拠点事業を実施する施設は 20 施設であり、その内、児童館設置が 2 施設、保育所・子ども園内設置が 15 施設、保健福祉センター内設置が 1 施設、商業ビル内設置が 2 施設であった。

(2) **事業受託者の沿革** 2011・2016 年度の「特定非営利法人子育てネットゆめもくば事業報告」より、2002(平成 14)年 7 月に、東広島市外に移住してきた子育ての当事者による子育てサークルが社団法人

東広島青年会議所（以下では JC とする）と連携し、財団法人子ども未来財団の親子よろこびの広場事業を受託（平成 14・16 年度）、東広島市西条町土与丸の西条商事本部 1 階空き店舗にて「おやこひろば」を開設する。さらに、2005（平成 17）年 4 月に東広島市からつどいの広場事業を受託しておやこひろばを継続するとともに（2005・2006 年度）、元 JC 会員を理事に加えて特定非営利活動法人子育てネットゆめもくばを設立、2006（平成 18）年 8 月に広島県から認証を受けている。そして、2007（平成 19）年 4 月に東広島市から新たに地域子育て支援拠点事業（ひろば型）の委託を受け（2007・2012 年度）、同年 7 月に西条プラザ 1 階に本拠地を移転し、「ゆめもくば」を開設している。その後、西条町に隣接する高屋町のニーズに応じるための事業等を実施し、2013（平成 25）年 4 月からは地域子育て支援拠点事業（地域機能強化型）、2014（平成 26）年 4 月からは利用者支援事業を受託している^{注1}。

(3) 目的・活動・事業の内容 ゆめもくばを運営する法人は、子育てネットゆめもくばウェブサイトにおける平成 24 年 6 月 17 日に一部改正された「定款」より、「地域の子育て中の家族に対する支援及び地域における子育て・子育て環境の向上に資する活動を行うことによって次世代の健全な育成に寄与し、希望に満ちあふれた社会を創造することを目的」としている（2 章 3 条）。子育てを「たくさんの人に見守られ支えられながら親も一緒に育っていくもの」と捉え、ゆめもくばが、地域の中で子育て中の親子が「たくさんのお出会い」を経験し、「自分のスタイルに合った子育て

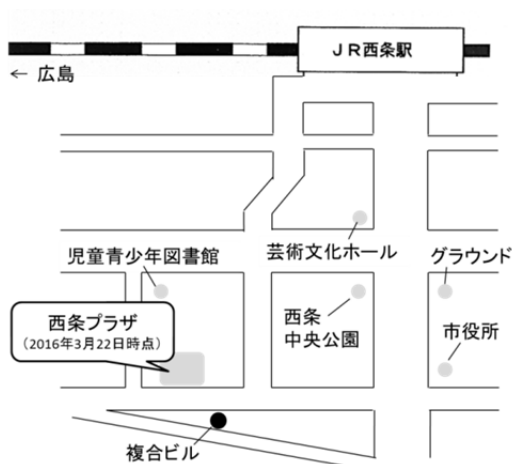
て」を模索し実現できる機会を得られる、「親と子が過ごすもうひとつの居場所」となることを目指す（子育てネットゆめもくば、2015）。そのために、「子どもの健全育成を図る活動」「社会教育の推進を図る活動」「まちづくりの推進を図る活動」「前各号に掲げる活動を行なう団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動」を行うこととし（2 条 4 章）。事業としては、2016 年 3 月時点で、東広島市からの委託で地域子育て支援拠点事業（一般型）と利用者支援事業を実施し、拠点事業としてひろば事業、相談援助事業、情報発信事業、啓発事業、出張ひろば事業を実施、その他ではミュージック・ケア、まちづくりに関する事業を行う。

(4) 施設の位置する建物と周囲の環境

広島県東広島市西条町 28-30 にある商業、娯楽、文化・教育、医療に関連するテナントが入る「西条プラザ」1 階に位置し（図 1）、2016 年 3 月訪問時点では同階には食料品や日用品を販売するスーパーマーケット等が営業している。西条プラザを中心とする半径約 300m 内に複数の金融機関、また、東広島市立サンスクエア児童青少年図書館や西条中央公園、東広島芸術文化ホールくらら等があり、最寄りの JR 西日本山陽本線西条駅南口からの道のりは約 1km である。

(5) 施設の設備と施設周囲の環境

ゆめもくばの設備は図 2 に示した。「ひろば」は開所時間から閉所時間まで室内遊びや談話等の場所で利用できる。「イベントルーム」は、昼食時間帯のみランチルームとしての利用に限定されるが、それ以外の時間帯の利用はひろばと同様である。また、



注) リーフレット「キッズプラザひがしひろしまゆめくば(子育てネットゆめくば 2015)」の西条プラザアクセス図を参照して作成

図1 ゆめくばが開設される建物周辺の状況

「入口」は親子全面ガラス戸、ひろばについては西条プラザ 1 階のスーパーマーケット食品売り場につながる通路 A 側の壁には 5 ヶ所の窓があり、通路から施設内の様子を、そして施設内から通路を通行する人の様子を目にすることができる。通路 A をはさんで隣に、主に 3 歳から小学生の子どもと親等の付き添いのおとなを対象とする子育て支援施設「キッズプラザひがしひろしまブランコ」がある。通路 B には西条プラザ 1 階出口が 2 ヶ所とトイレが 1 ヶ所設置されている。「駐車場」は、西条プラザ専用の建物地下 1 階にある駐車場を無料で利用できる。

金口氏・森川氏への聞き取りによれば、施設が商業を中心とする建物内部に開設されたことで、「広く、人に子育て支援施設を知ってもらう、子育て支援のニーズを分かってもらう」ことが可能になったという。「何かを買いに来ただけの人であっても、廊下を通るときに、ゆめくばの中の様子を目にできれば、そういった不特定多数の人が『子育て』について少しでも考え、『応援』する『目』をむけてくれるきっかけ」をつくることができる。また、利用者となる親子にとっても「行ってみないと分からない場所より、よく知った場所で、何かのついでに来られる身近な場所のほうが足は向きやす」くなる。



図2 ゆめくばの施設内環境

加えて、西条プラザそのものは商業を中心とする施設であるが、主たる消費者に「高齢者が多く、足を運んで、ベンチに座って、話して、また帰ることが気軽にできる場所」であることが指摘される。店側・店員もそのような利用に慣れており、また「ゆめくばの利用者も廊下でお年寄りから声をかけてもらう・話をする」場面等が見られるという。

加えて、西条プラザそのものは商業を中心とする施設であるが、主たる消費者に「高齢者が多く、足を運んで、ベンチに座って、話して、また帰ることが気軽にできる場所」であることが指摘される。店側・店員もそのような利用に慣れており、また「ゆめくばの利用者も廊下でお年寄りから声をかけてもらう・話をする」場面等が見られるという。

(6) 運営状況 ゆめくば提供資料(子育てネットゆめくば, 2013, 2014, 2015a, 2015b, 2016) および金口氏からの聞き取り内容をふまえ、運営状況についてまとめた。

対象年齢 0歳から2歳までの子どもとその親等の付き添いのおとなを対象としている。利用時は親子を原則とし、対象年齢児が居れば、3歳以上のきょうだいの利用も可能である。原則として、来所を希望する親子については、「開設以来、いつ来

でも迎え入れられるひろばが理想であり、予約していないと入れない、外国籍・市外の住民は入れない、イベント時は入れない、という制限を設けないようにし、「通りがかりでも入れ、イベント実施中でも施設内に居場所があり、夏休みの間だけ、他にもお産の里帰り時だけというような一時利用でも気兼ねなく使えるよう」に努められている。

開所スケジュール 年末年始時をのぞき、毎週月曜日・水曜日・金曜日は開所 10:00 から閉所 15:00 まで、0-2 歳の全年齢が利用できる。火曜日・木曜日・土曜日は、特定の年齢児と親等の付き添いのおとなを対象に開所される等している。

利用料と登録 施設利用は無料であり、初回来所時に登録を促し、了承を得られれば子どもごとに登録カードを発行、2 回目以降の来所時には専用機械に呈示することを求めている。登録は、利用者数を月ごとや年ごとに算出し、利用者の傾向を数値上で把握したり、事業改善の基礎資料を作成する際に用いられている。

職員の構成・配置・業務 専任職員数は東広島市在住の 12 名で、その他、有資格・免許者として歯科医師 1 名、臨床心理士 1 名が数ヶ月おきに来所し業務に加わっている。イベント時等をのぞき、開所時間中は 3 名以上の職員が常駐し、来所した親子の様子確認や相談対応、受付等を

行う。閉所後は職員会議を開き、主に、その日の活動時に職員が受けた相談内容、相談への具体的対応が報告・検討される等している。

開所状況 2007-2015（平成 19-27）年度における、年間開所月数、年間開所日数、月平均開所日数を表 2 に示した。表 2 は、毎年 6 月に開催される通常総会配布時の資料（2013-2016 年度）をもとに本稿筆者が作成した。表 2 より、ゆめもくばは西条プラザ内に開設以来、一年間で平均 256.8 日、一月あたり平均 21.4 日開所されている。

(7) 施設利用者の状況 まず、2007-2015（平成 19- 27）年度における利用者数を表 1 に、2012-2015（平成 24-27）年度における内容別相談件数を表 2 と図 5 に視覚化した。表 2 は、表 1 同様に、本稿筆者が通常総会資料（2013-2016 年度）の集計値をまとめ直して作成し、図 5 は表 3 をもとに作成した。加えて、金口氏・森川氏からの聞き取りに基づき、利用者数と内容別相談件数と相談への対応について要点をまとめた。

利用者数 表 1 より、年平均利用者数は、子どもで平均 11126.3 人、親等の付き添いのおとなでは平均 10109.6 人である。

内容別相談件数 表 2 より、年平均相談件数は 2431.8 件であり、一月あたりで平均 202.6 件、一日あたりでは平均 9.3 件



図 3 ゆめもくばの様子

の相談があるといえる。

また、図 5 より、年平均 2431.8 件の内容を見ると、子どもの発達と育児方法についての悩みが 6 割以上を占め、子どもの就学や園選び等に関する子どもをめぐる生活環境についての悩みと合わせると、8 割が子どもに関する相談といえる。

相談への対応 開設当初ほどではないが、子どもの生活習慣の獲得に関する相談が全体の相談件数を占める割合は大きく、また発達障害についての問い合わせの増

加も指摘されている。生活習慣獲得に関しては、一例として、施設内では、「子どもが『トイレに行きたい』と言ってから、家族と一緒にトイレに行く」ことの重要性を伝え、「失敗」しても気兼ねなく、安心して子どもと親がはき替え・着替えが行えるような雰囲気をつくることにより、トイレトトレーニングが「体調を自覚し、自己をコントロールできるようになる力を獲得する」機会であることへの理解を促すようにしている。

表 1 開所状況と施設利用者数のまとめ

年度	開所状況			利用者数					
	月数	日数		子ども			親等の付き添いのおとな		
		年合計	月平均	年合計	月平均	日平均	年合計	月平均	日平均
2007 (平成19)	12	203	16.9	6903	575.3	34.0	6630	552.5	32.7
2008 (平成20)	12	265	22.1	10705	892.1	40.4	9971	830.9	37.6
2009 (平成21)	12	265	22.1	11308	942.3	42.7	10314	859.5	38.9
2010 (平成22)	12	265	22.1	12480	1040.0	47.1	11379	948.3	42.9
2011 (平成23)	12	263	21.9	12214	1017.8	46.4	11284	940.3	42.9
2012 (平成24)	12	262	21.8	12257	1021.4	46.8	10896	908.0	41.6
2013 (平成25)	12	262	21.8	11308	942.3	43.2	10098	841.5	38.5
2014 (平成26)	12	262	21.8	11700	975.0	44.7	10208	850.7	39.0
2015 (平成27)	12	264	22.0	11262	938.5	42.7	10206	850.5	38.7
平均	12	256.8	21.4	11126.3	927.2	43.1	10109.6	842.5	39.2

表 2 相談内容別相談件数のまとめ

年度	内容									件数		
	子どもの心身の発達と育児方法			子どもをめぐる生活環境			親自身の悩み			年合計	月平均	日平均
	小計	月平均	日平均	小計	月平均	日平均	小計	月平均	日平均			
2012 (平成24)	1466	122.2	5.6	234	19.5	0.9	540	45.0	2.1	2240	186.7	8.5
2013 (平成25)	1258	104.8	4.8	166	13.8	0.6	523	43.6	2.0	1947	162.3	7.4
2014 (平成26)	1647	137.3	6.3	257	21.4	1.0	384	32.0	1.5	2288	190.7	8.7
2015 (平成27)	2051	170.9	7.8	843	70.3	3.2	358	29.8	1.4	3252	271.0	12.3
平均	1605.5	133.8	6.1	375.0	31.3	1.4	451.3	37.6	1.7	2431.8	202.6	9.3

注) 東広島市高屋町で月3回開く、親子が集うためのひろばにおいて対応した相談を含む。

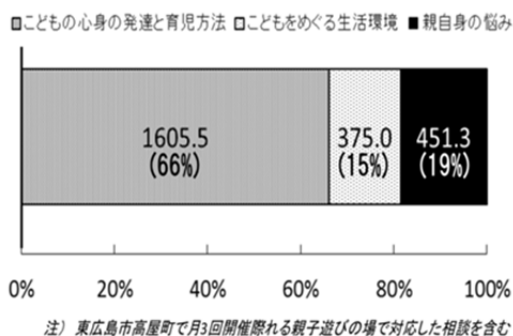


図 4 2007-2015 年度における年間平均相談件数の内訳 (グラフ中の数字は件数と割合%)

発達障害についての相談は、育児不安に関連しているものが多く、子どもの姿・行動をネットで調べて、「障害」の一状態像が当てはまると、「検査をした方が良いのでは」という問い合わせが寄せられることがしばしばあるという。必要に応じて、職員から専門機関の情報提供が行われるが、それにより親を悩ませている「不安」を解消できるとは限らないため、その「不安」を丁寧に傾聴する取り組みがなされている。

(8) 利用者対応 対応における留意点、求められる専門性、専門性担保のための取り組みについて、金口氏・森川氏からの聞き取りをもとに要点を以下にまとめた。

対応時の留意点 職員自身が遠方にいる親に頼れない状況で子育てをしていた折に感じた「頼れる場所・安心できる場所」の必要性が、ゆめもくば開設の根底にあるという。「頼れる場所・安心できる場所」は、子育ての権威のいる場所ではなく、同じ立場の人間と繋がれたり受容されたりする場所であると考えて、職員は子育て経験のある「先生という立場ではない近所のおばちゃん」という立場で臨む。対応時には、子どもや親等の利用者が職員に抱く「話を聞いてほしいという要求、答

えを教えてほしいという要求」を受け止められるよう傾聴の姿勢が重要視されている。「相手」の求める「答えを職員が示せるわけではない」が「悩みにつき合う」「気持ちに聞く」ことで、「相手の気が楽になり力が湧く」ように、利用者の話を聞くとのことである。また、他の家族との交流を促し、「不安なのは自分一人ではない」という気付きと安堵が得られるように図られている。気づきと安堵を得るにいたるには「継続利用」が重要と考え、利用時初期に「一人で不安そうにしている親子がいれば側に行って」寄り添い話しかける等、施設に慣れるための働きかけをし、その一方で、相談業務全般には利用者と「適度な距離を保つ」ことが心掛けられている。利用を継続させるにあたって条件としては、他にも、施設の位置する西条プラザの地理的特徴や雰囲気が指摘されている。

求められる専門性 利用者が話をしたいと思える雰囲気をつくれ、守秘義務を守り、話を傾聴する力の必要性が指摘されている。加えて、「聞きっぱなし」ではなく、相手に「何を求めており、どんな選択をしたいと考えているのか」を尋ねられるような技術を身につけ、受けた相談を共有可能な記録として作成する力も重要であるという。

専門性担保のための取り組み 内部研修と、外部研修および他の子育て支援施設等の視察、東広島市主催の子育て支援従事者対象の会議等への参加が行われている。施設内研修としては、講師を召喚して行うものと、日々の職員会議時の事例検討である。外部研修としては「子育てひろば全国連絡協議会で企画される講習会」、視察と

しては県外の地域子育て支援拠点施設に赴くほか、利用者への情報提供時を見越して県内の療育機関を訪問し、機関での支援内容や場所等を確認している。

(9) 今後の課題 金口氏からの聞き取りより、施設の設置場所が変更になった場合における、これまでの支援体制の継続が課題として指摘された。

2. 街なか子育てひろば

1) 対応者

吉坂敬子氏(熊本市子ども支援課事務職員参事)、岩崎千夏氏(公益財団法人熊本市美術文化振興財団事務局次長:美術館学芸班取りまとめ)、岡田直幸氏(同財団総務班主事)。

2) 訪問調査概要

(1) 熊本市 九州の中央、熊本県の西北部に位置し、熊本市は 3 市(宇土市、宇城市、合志市)、9 町(美里町、玉東町、大津町、菊陽町、御船町、嘉島町、益城町、甲佐町、山都町)、1 村(西原村)とともに熊本都市圏を構成している。熊本市ウェブページ「熊本市のプロフィール 熊本市の概要」より、「サービス産業が中心」であるが、「IC 産業の集積、全国でも高い生産性を誇る都市型農業、水産業」等も展開されている。

人口に関しては、熊本市がウェブページ上で公開する「熊本市統計情報」より、2016 年 3 月 1 日現在の総人口は 734,972 人であり(2015 年 3 月 1 日時点より 404 人増)、そのうち 0-4 歳代の人口は 34,667 人であり、世帯数については 2016 年 3 月 1 日現在で 331,929 世帯である(3,511 世帯増)。注 2 出生数については熊本市がウェブページ上で公開する「人口動態総覧

(実数)」の年次推移より、2014 年時点の年間出生数値から算出すると 1 日あたり 19.3 人である。乳幼児健診受診状況は、熊本市子ども輝き未来プラン(熊本市健康福祉子ども局子ども支援課、2015)および「平成 26 年度地域保健・健康増進事業報告の概況地域保健編(厚生労働省、2016b)」より、1 歳 6 ヶ月健診では対象者の 96.3%が受診し(全国平均 95.5%)、3 歳児健診では対象者の 94.1%が受診している(全国平均 94.1%)。

地域子育て支援拠点事業を実施する施設は 23 施設であり、その内、保育所・子ども園内設置が 20 施設、子育て支援・高齢者支援・健康福祉施設内設置が 2 施設、美術館内設置が 1 施設である。

(2) 沿革 子ども支援課提供資料(吉坂、2016a)と吉坂氏からの聞き取りをもとに街なか子育てひろばの沿革を、現代美術館提供資料(熊本市現代美術館、2014;岩崎、2016)と岩崎氏・岡田氏からの聞き取りをもとに、熊本市現代美術館の沿革を以下にまとめた。

街なか子育てひろば 熊本市には、街なか子育てひろば設置以前の 2010(平成 22)年 3 月末時点で 20 の拠点事業施設(センター型)は存在したが、子育て中の家庭から、「車がなく公共交通機関で行き易い場所がほしい」「子育てについて相談したいが、平日は仕事で既存の施設の利用が難しい」「そのためだけに出てこれない」等の要望が挙げられていた(吉坂、2016a)。これをふまえ、2010(平成 22)年 3 月に、次世代育成支援後期行動計画策定時において、公共交通機関の結節点となる中心市街地や商店街に新たに拠点事業施設(ひろ

ば型)を1ヶ所開設することが定まり、具体的な設置場所として熊本市現代美術館(以下では現代美術館とする)が候補に挙がる。その理由は、美術に関する文化施設でありながら、来館した親子が寛ぎ遊ぶための「キッズサロン」が設けられ、また、親子や子ども向けの企画等も開催される等、かねてより子ども連れで訪れやすい土壌があった点、来所した子どもおよび保護者への情操面での効果が期待できる点、また、美術館側にとっても子育て支援の拠点を設けることで、新たな利用者層の開拓が期待できる点にあった。

そこで、2012(平成24)年度より、熊本市健康福祉子ども局子ども支援課、現代美術館、観光文化交流局文化振興課(所管課)の間で協議を進め、熊本市と現代美術館とが協同の管理・運営主体となることにより、2014(平成26)年6月にびぶれす熊日会館3・5階にある熊本市現代美術館内3階フロアでの開設を迎えた。2013(平成25)年2月における安心子ども基金管理運営要領の改正に伴い、ひろば型は一般型に分類されている。

現代美術館 熊本県出身の画家、井手宣通氏遺族から熊本市への作品寄贈がきっかけとなって建設計画が立ち上がり、1997(平成9)年の熊本市議会での上通A地区第1種市街地再開発事業の一環としての美術館建設の表明を経て、2002(平成14)年10月に開館した。設置主体は熊本市であり、開館以降、公益財団法人熊本市美術文化振興財団(以下では財団とする)が管理・運営している。財団は1994(平成6)年10月に設立され、2000(平成12)年から美術館の管理運営団体として条例

に謳われていたが、2003(平成15)年の地方自治法一部改正による指定管理者制度の施行を背景に、2006・2008(平成18・20)年度に熊本市から現代美術館の管理・運営の特命指定を受けた。その後、2008(平成20)年と2013(平成25)年の指定管理者公募のそれぞれにおいても採用され、2016(平成28)年現在も指定管理者業務を受託している。

(3) 目的・活動・事業の内容 子ども支援課提供資料(吉坂, 2016a)と吉坂氏からの聴き取りをもとに街なか子育てひろばの、現代美術館提供資料(公益財団法人熊本市美術文化振興財団, 2014; 岩崎, 2016)と岩崎氏からの聞き取りをもとに現代美術館の目的・活動・事業の内容についてまとめた。

街なか子育てひろば 現代美術館という公共交通機関の結節点に近い場所に設置することにより、仕事等で平日に子育て支援拠点に行けない、あるいは身近に子育て支援の拠点がなく、また移動等に制約がある子どもと保護者にも、気軽に集まって交流し、子育ての不安・悩みを相談できる場を提供し、子育ての孤立化からくる不安感・負担感を低減させることを目的とする(吉坂, 2016a)。さらには、「美術館という環境下において、子どもや保護者の感性に働きかける美術の潜在的な力を最大限に活かし」、子どもが自然に「美術に親しむ」ことで「感性を磨き、想像力を育む」こと、親にとつての「リフレッシュ」の機会となつて「新たな気持ちで子どもに向き合うことができる」ようになること(吉坂, 2016a)、「美術館という素敵な場所に子どもを連れてきた/または保護者自身の好き

な場所にきた」という満足感に基づく「心の余裕」を生むこと（吉坂，2016c）が目指されている。これらをふまえて，熊本市のウェブページ上にも公開されている街なか子育てひろばのリーフレットによれば，美術館の協力のもと，「感性を刺激する」「創造力を育む」遊具・絵本を選定して設置し，施設内壁の装飾等をアーティストが手がける等環境整備が進められている。現在実施中の事業は，親子の交流の場の提供，子育てに関する相談対応，情報提供，身長・体重計測，美術館の専門性を活かした定期的な講演・ワークショップの開催である。

現代美術館 熊本市美術文化振興財団（2014）より，「国内外の水準の高い企画展を開催するとともに，美術の調査研究や地域に根差した教育普及活動を実施」すること，市民をはじめ「全国から観客が訪れるような開かれた」運営を行うこと，「全国的に活躍する熊本および九州出身のアーティストを紹介」し，「熊本の芸術文化を国内外へ広く発信」することを目指す。目的達成のために，「アートの力を見せる：惹きつける，変える」，「アートへの愛情を育てる，根付く土壌をつくる」，「アートが人をつなぐ，アートで都市をデザインする」

ことを掲げ，「魅力的な展覧会」，「わかりやすい教育普及」，「心地よい交流・サービス」の実施に努める。

（4）施設の位置する建物と周囲の環境

街なか子育てひろばは熊本県熊本市中央区上通町 2-3 の商業，文化・教育，宿泊，事務に関連したテナントが入る「びぶれす熊日会館（以下では会館とする）」3-5 階にある現代美術館内に位置する（図 5 参照）。会館はアーケードの設けられた上通町の商店街・繁華街に隣接し，半径約 300m には多数の商業施設や飲食関連の施設，また，熊本市役所や熊本市中央区役所，くまもと県民交流館パレア等があり，熊本市営電車の通町筋停留場・水道町停留場，熊本市営バスをはじめとする通町筋停留所が設置されている。

現代美術館に隣接する商店街は，拠点事業の一環としての親子向けワークショップの場を提供し，また商店街が主体となってアート関連の活動を企画する場合には現代美術館に助言を求める等，近年現代美術館との間に一層の協力関係を築いている（岩崎，2016）。

（5）施設の設備と施設周囲の環境

街なか子育てひろばと周囲の館内設備の関係を図 7 に示した。施設は三側面のみ壁で



図 5 街なか子育てひろばが開設される建物周辺の状況

囲まれ、残りの一側面は館内の通路に面しており、複数名が同時に靴を脱着できる等、出入りしやすく、施設内から作品鑑賞者の様子をうかがえ、鑑賞者も館内移動の際に施設内の親子や保育士等の職員の活動を目にすることが可能である。図 6 の▲印にあたる位置には、街なか子育てひろば開設以前に親子のための室内あそび場であるキッズサロンが設置されていた。

施設内部は授乳スペースを除いて間仕切りは設けられておらず、棚や座卓等の家具類と、遊具である木製ボールプール、三面鏡、マット等が配置され、大型絵本や木製玩具等が備えられている（図 7c,d 参照）。また、通路を挟んで施設正面にはエレベーターと美術作品、カフェが位置し、その他、周囲に無料展示室、授乳室と多目的トイレ等がある。なお、駐車場は現代美術館が入る会館の地下 2 階共同駐車場を使用できる。

(6) 運営状況 子ども支援課提供資料（吉坂, 2016a; 吉坂, 2016b）と吉坂氏・岩崎氏からの聞き取りをもとにまとめると、街なか子育てひろばの運営状況についてまとめた。

対象年齢 おおむね就学前児とその親等の付き添いのおとなを対象としている。小学生等が訪れる場合もあり、年長の子どもやその親等の来所も制限されていない。

開所スケジュール 火曜日を除いた 6 日開所し、日曜日・祝日も 10:00-15:00 で開所されている。15:00 以降は子育てアドバイザーが不在となるが、街なか子育てひろばのスペースの利用、ソファや絵本、一部の玩具の使用は、現代美術館の閉館時間 20:00 まで可能である。

利用料と登録 施設利用は無料であり、登録に関しても利用者に課さず、来所時の受付も不要としている。これは、現代美術館の方針である「利用者の匿名性の尊重」に基づいており、来所する親子を「管理されるものではない」存在と見なしているためである。また、「利用者にとっての敷居が高く」ならないよう、「気軽に来て、遊んで、帰れる」場所・「自由に使える」場所となるためにも必要な配慮と捉えられている。

なお、利用状況の把握にあたっては、子育てアドバイザーが、親等の付き添いのおとなの性別・年代・人数、子どもの年齢・

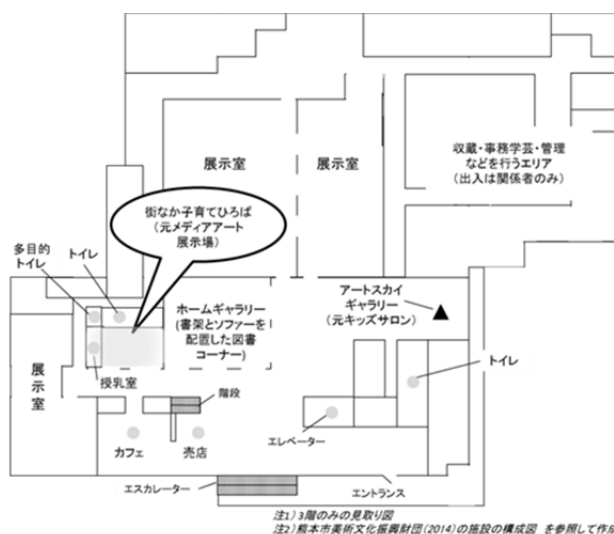


図 6 熊本市現代美術館 3 階における街なか子育てひろばの配置

人数について聞き取りを行って統計数値をまとめ、また、毎月の特定期に、利用者に居住区（初回来所時のみ）と交通手段、利用回数を尋ねるヒアリングを実施している。

職員の構成・配置・業務 子育てアドバイザーとして熊本市から派遣された保育士 3 名が常駐し、現代美術館職員も不定期で利用状況確認および利用者対応のために来所している。子育てアドバイザーは利用者の様子に応じて話しかけたり、要望があれば子育て・発達相談に応じたりするが、定時での読み聞かせや手遊び等の「お集まり」は企画・実施していない。その理由は、親子らが自分たちのペースで利用できる場と時間を保障することにより、自発的な他者との交流を促すためである。

開所状況 2014 年 6 月・2016 年 3 月までの、年間開所月数、年間開所日数、月平均開所日数を表 4 にまとめた。表 4 は子ども支援課提供資料（吉坂, 2016a; 吉坂, 2016b）をもとに、本稿筆者が作成した。表 4 より、街なか子育てひろばは開設以来、平均で一年間に 281.5 日、一月あたり 25.6 日開かれているといえる。

(7) 施設利用者の状況 街なか子育てひろばの利用者状況と、現代美術館利用者の状況について以下にまとめた。

街なか子育てひろば まず、街なか子育てひろばについて、2014・2015 年度（平

成 26・27 年度）における利用者数を表 3 に、内容別相談件数を表 4 と図 8 に視覚化した。表 4 は、表 3 同様に、子ども支援課提供資料（吉坂, 2016a; 吉坂, 2016b）の利用者数の集計表をもとにまとめた。また、図 8 は表 4 に基づいて作成した。

(i) 利用者数 街なか子育てひろばの利用者数について、表 3 より、年平均利用者数は、子どもで平均 9783.0 人、親等の付き添いのおとなでは平均 9085.0 人である。岩崎氏からの聞き取りより、熊本市内、また熊本県内の在住者に加えて、旅行等で遠方から熊本市に訪れた家族が利用する場合もあるという。遠方からの親子での利用は、「親が美術館での展示・イベントを目当て」に来館したこときっかけになっている事例が複数認められる。また、日曜日・祝日には父子の来所が平日に比して多い可能性が指摘されている（吉坂, 2016c）。

(ii) 内容別相談件数 表 4 より、年平均相談件数は 512.0 件であり、一月あたりで平均 45.1 件、一日あたりでは平均 1.8 件の相談がある。子育てアドバイザーとの自然な会話の中で子育て相談につながるケースが多い（吉坂, 2016c）。

また、図 8 より、年平均 512.0 件の内容を分類すると、子どもの発達と育児方法についての悩みが 6 割程度であり、子どもの就学や園選び等の「子どもをめ



図 7 熊本市現代美術館および街なか子育てひろばの様子

ぐる生活環境についての悩み」と地域の子育て支援センター等の情報提供等の「その他の子育てに関連する問い合わせ」を合わせると、およそ 9 割が子どもに関連する。子どもの発達と育児方法のカテゴリーは「子どもの食事（離乳食を含む）」「健康」の相談を含んでいる（吉坂，2016c）。

現代美術館 現代美術館に関しては、入館者数と入館者の内訳、入館目的、推察される街なか子育てひろば開設の効果についてまとめた。

(i) 入館者数 財団がまとめる入館者実績を参照したところ（岩崎，2016），最新集計値である平成 26 年度の年間の全館入場者の総数は述べ 235,424 人，であり，2002（平成 14）年度の開館より 2014（平成 26）年度までの平均を算出すると，全館入場者は毎年 200,000 人程度である。

(ii) 入館者の内訳 2014（平成 26）年の年間全館入館者総数のうち，20 歳以上の場合は 30 歳代がおよそ 20%で最多であり，高校生以下の子どもでは未就学

児がおよそ 7.5%で最多である（岩崎，2016）。

(iii) 入館目的 2014（平成 26）年に実施した入館者対象アンケートの結果より，792 通の回答より，「展覧会イベント等」75%，「くつろぐ」9.5%，「子どもと遊ぶ」3.5%，「その他」12%となっている（岩崎，2016）。

(iv) 施設開設に対する反応 岩崎氏・岡田氏からの聞き取りにもとづくと，施設開設前には入館者対象のアンケートに「子どもの声がうるさい・騒がしいのは美術館にふさわしくない」という苦情が寄せられる場合があったが，街なか子育てひろば開設から約 2 年経過した 2015 年 3 月の時点では，上述のような苦情は減少傾向にあることが指摘されている。拠点事業施設が置かれたことで，現代美術館全体が「ここは子どもがいても良い場所」として理解された可能性がある。しかしながら，大半の入館者は前々から，美術館はそこまで静かにしなければならない場所とみなしておらず，また，涼むため，待ち合わせに利用する

表 3 開所状況と施設利用者数のまとめ

年度	開所状況			利用者数					
	月数	日数		子ども			親等の付き添いのおとな		
		年合計	月平均	小計	月平均	日平均	小計	月平均	日平均
2014 (平成26)	10	254	25.4	8127	812.7	32.0	7713	771.3	30.4
2015 (平成27)	12	309	25.8	11439	953.3	37.0	10457	871.4	33.8
平均	11	281.5	25.6	9783.0	883.0	34.5	9085.0	821.4	32.1

注) 2014年度の年間開所月数については，同年6月より街なか子育てひろばの運営が始まったため，10ヶ月としている。

表 4 相談内容別相談件数のまとめ

年度	内容										件数		
	子どもの心身の発達と育児方法			子どもをめぐる生活環境			親自身の悩み			その他の子育てに関連する問い合わせ			年合計
	小計	月平均	日平均	小計	月平均	日平均	小計	月平均	日平均	小計	月平均	日平均	
2014 (平成26)	161	16.1	0.6	23	2.3	0.1	33	3.3	0.1	77	7.7	0.3	294
2015 (平成27)	501	41.8	1.6	38	3.2	0.1	36	3.0	0.1	155	12.9	0.5	730
平均	331.0	28.9	1.1	30.5	2.7	0.1	34.5	3.2	0.1	116.0	10.3	0.4	512.0

注) 2014年度の年間開所月数については，同年6月より街なか子育てひろばの運営が始まったため，10ヶ月としている。

ため等、美術鑑賞を主な目的としないケースも少なくはなかったという。職員側も、現代美術館が担う市街地における「居場所」や「つどいの場」として役割を踏まえて(熊本市美術文化振興財団, 2014; 岩崎, 2016), そのような利用をある程度認めてきたとのことである。

(v) 推察される施設開設による効果

岩崎氏からの聞き取りに基づくと、施設開設後に、「子どもの目だからこそ発見できた作品」として、施設正面の草間彌生による鏡を用いた「早春の雨 2002」へのアクセスが増加したという。まず、施設を出入りする子どもが興味をもち、それに伴って親等の付き添いのおとも鑑賞するようになっていった例とされる。

(8) 利用者対応 対応時の留意点, 求められる専門性について, 子ども支援課提供資料(吉坂, 2016d)と, 吉坂氏・岩崎氏・岡田氏からの聞き取りの要点を以下にまとめた。

対応時の留意点 熊本市から派遣された常駐する子育てアドバイザーに関しては, アドバイザーが「教える立場」で利用者は「教えられる立場」というような上下方向の関係ではなく対等な関係の形成が目指されている。そのため, 個別に応じた関わりを念頭に肯定的な対話が心がけられ, 親子が気軽に来所し, 自由に遊んで,

気持ちをリフレッシュして帰ることができるよう努められている。

求められる専門性 子育てアドバイザーに関しては, 子育て支援経験とコミュニケーション力が求められている。一方で, 現代美術館職員においては, 主に講演・ワークショップ事業における, テーマ設定・企画・実施を担うため, 「子どもの発達に対する美術教育の効果」を検証するとともに, 現代美術館内での親子の過ごし方, 利用状況の情報の収集・整理・分析し, 環境改善に取り組む力が求められている。

専門性担保のための取り組み 子育て支援アドバイザーを中心に, 熊本市内の児童館, 子育て支援センター等の子育て支援施設から構成される「子育てほっとステーション」連絡会へ参加する(吉坂, 2016d)。連絡会では, 他施設との連携を深めるとともに, 各地区における子育て支援関連情報の共有を図り, 子どもの発達や子育てに関する現代的課題についての講演を聴講する等している。

(9) 今後の課題 吉坂氏・岩崎氏・岡田氏からは次の3点が指摘された。1点目は, 街なか子育てひろばの設置が子育て中の親子を含め市民と現代美術館にもたらす効果の検証・可視化, 2点目は, 美術館管理者や行政担当者における変更の可能性を見越したうえでの運営体制の確立と引継ぎ体制づくり, 3点目は, 子どもと親を

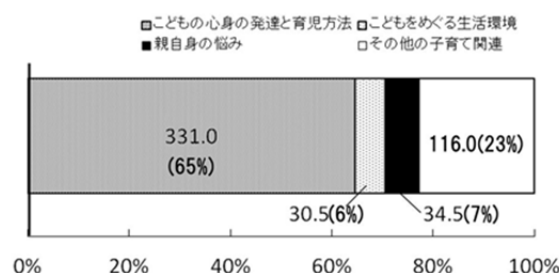


図8 2014-2015年度における年間平均相談件数の内訳 (グラフ中の数字は件数と割合%)

含む保護者にとって最良・最適の環境が提供されているかどうかの評価, である。

まとめ

本研究では, 地方市部において地域子育て支援拠点事業を行う施設に焦点を当て, 現地への訪問を実施して, 地域の多様な社会的関係の中で子育てを可能にするための各施設の具体的な取り組みについて調べた。調査を通して, 東広島市のゆめもくばと熊本市の街なか子育てひろばにおいては, 開設までの経緯や年数, 運営にあたる職員構成に異なる点はあるが, それぞれ, 一日平均で 30-40 名程度の子どもとその親等の付き添いのおとなが利用していた。このような実績は, 両施設が, 親子にとって家庭外の人的・物的環境と安心して相互作用できる場となることを目指し, 親にとっても子どもにとっても利用経験が家庭生活および地域生活への活力源となることを願って取り組んできた各事業に支えられていると考えられる。それぞれの事業実施にあたっては, 2 つの施設では職員によって親子の自己決定や自発的行動を促していけるよう, 利用者固有の「ペース」を尊重した関わり・権威者としてではなく利用者と「同じ立場」「対等な立場」での関わりが心掛けられており, このことから, 社会福祉的な援助の基本姿勢が意識されていると推察できよう (笠師, 2014)。

加えて, 本訪問調査の結果として, 事業展開の足場となるゆめもくばおよび街なか子育てひろばの物理的構造には共通する特徴が窺われた。すなわち, 各施設とも, 内部を壁等で外と隔てて全く隠してしまうはせず, 複数の窓や広い出入口を設ける

ことで, 施設内にいる親子と外を往来する者とが自然に互いの姿を目にできるようになっていた。このことは, 施設外部に, その地域での子育ての現状や子育て支援活動の一端を発信するにあたって役立ち, また, 施設内の親子には施設外の人的・物的環境に興味・関心を持たせ, ときに探索行動を促すことにつながる可能性が窺われた。各施設がこういったある程度の開放性を有することができた背景には, それぞれの施設の開設場所である西条プラザと現代美術館が, 周辺の地域住民・市民にとって寄り合い所としての機能を持ち, 購買・消費や美術鑑賞といった建物本来の目的以外でも人々がその場を訪れて佇み, 集うことを許容してきた経緯があるであろう。このように, パブリック性をもった空間 (小泉, 2013) として西条プラザと現代美術館が示してきた“多様な人々がそれぞれの目的でこの場所にいてよい”という姿勢に対する来訪者の理解が, 子どもや親子の存在に対する受容へとつながり, 各施設が開放的な構造をもつことに寄与したのではないだろうか。

以上より, 本研究では, 「特定の誰かにではなく, 広い範囲の人々」を対象とし「多くの人々に対して物理的にもしくは視覚的に開かれ」た場所 (小泉, 2013) に開設された子育て支援拠点事業施設の取り組みの具体例に焦点を当てその現況について報告することができたと考える。今後は, パブリック性を有する場所に設置された施設特有の, 支援体制の確立・継続に関する課題を明らかにしていくことを目標に, 追跡的・継続的な調査に加えて, その他の施設も視野に入れた訪問調査を行うこと

を通して、子育てを支えるための地域の環境の醸成（橋本, 2014）の一助となる基礎的な知見の収集を進めたい。

注

（注1） ゆめもくばは 2016 年 8 月末の西条プラザ閉店に伴って移転し、同年 9 月 12 日より新住所で事業を再開した。2016 年 10 月 31 日現在は図 1 における●で示された複合ビル 1 階にて、移転前と同様の開所時間帯で運営されている。

（注2） 2016 年 4 月 14 日以降に熊本地震が発生した。地震発生から約 6 ヶ月経過した 2016 年 10 月 1 日現在で、熊本市の人口・世帯数については同市がウェブページ上で公開する「熊本市統計情報」より、総人口 733,453 人、そのうち 0・4 歳代の人口が 34,404 人であり、世帯数は 333,356 世帯である。

謝辞

本研究の実施に当たりまして、訪問調査をご快諾下さり、本稿修正時においても並々ならぬご協力下さいました金口氏・森川氏（子育てネットゆめもくば）、吉坂氏（熊本市子育て支援課）、岩崎氏・岡田氏（熊本市美術文化振興財団）、そして東広島市と熊本市における関連機関の皆さまに心より感謝申し上げます。

また、本稿作成にあたって丁寧な助言・指導を下さった田中謙先生（山梨県立大学）に深くお礼申し上げます。

付記

本研究は、「平成 27 年度地（知）の拠点大学による地方創生推進事業 Center of

Community Plus(オールやまなし 11+1 大学と地域の協働による未来創世の推進)」の助成を受けて行われた。

引用文献

Butterworth, G. & Hariss M. (1997) 村井潤一（監訳）小山正・神土陽子・松下淑（共訳）発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的文化的基盤 京都：ミネルヴァ書房

(Butterworth, G. & Hariss M. (1994) Principles of Developmental Psychology. East Sussex: Lawrence Erlbaum Associates Ltd.)

ベネッセ次世代育成研究所（2011）子育てトレンド調査レポート第4回：首都圏・地方市部ごとにみる乳幼児の子育てレポート <http://berd.benesse.jp/up_images/research/research17_11.pdf>2016.10.31 閲覧

東広島市（2016）東広島市のプロフィール <<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/soshiki/7/purohuli-ru.html>> 2016.10.31 閲覧

東広島市（2016）統計でみる東広島 2015 <<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/uploaded/attachment/73010.pdf>>2016.10.31 閲覧

東広島市 人口・世帯数 2015(平成 27) 年度大字別人口及び年齢別人口等 <<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/16/2015-jinkou.html>>2016.10.31 閲覧

東広島市 人口・世帯数 2016(平成 28) 年度大字別人口及び年齢別人口等 <<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/site/16/2016-jinkou.html>>2016.10.31 閲覧

- oshima.jp/site/16/2016-jinkou.html>2016.10.31 閲覧
- 橋本真紀 (2015) 地域を基盤とした子育て支援の専門的機能 京都: ミネルヴァ書房
- 岩崎千夏 (2016) 熊本市現代美術館について (2016.03.23) 熊本: 公益財団法人熊本市美術文化振興財団
- 笠師千恵 (2014) 第3章: 相談援助の相談と技術 笠師千恵・小橋明子 相談援助・保育相談支援 (pp.54-84) 東京: 中山書店.
- 小泉雅生 (2013) 序章 今村雅樹・小泉雅生・高橋晶子 パブリック空間の本: 公共性を持った空間の今までとこれから (pp.8-9) 東京: 彰国社.
- 子育てネットゆめもくば (2012) 特定非営利活動法人子育てネットゆめもくば定款 (平成24年6月17日一部改正)
<http://yumemokuba.net/npo/pdf/teikan_H240617.pdf>2016.10.31 閲覧
- 子育てネットゆめもくば (2013) 特定非営利活動法人子育てネットゆめもくば平成25年度通常総会資料(2013.6.22) 広島: 子育てネットゆめもくば
- 子育てネットゆめもくば (2014) 特定非営利活動法人子育てネットゆめもくば平成26年度通常総会資料(2014.6.15) 広島: 子育てネットゆめもくば
- 子育てネットゆめもくば (2015a) 特定非営利活動法人子育てネットゆめもくば平成27年度通常総会資料(2015.6.14) 広島: 子育てネットゆめもくば
- 子育てネットゆめもくば (2015b) キッズプラザひがしひろしまゆめもくば[リーフレット] 広島: 子育てネットゆめもくば
- 子育てネットゆめもくば (2016) 特定非営利活動法人子育てネットゆめもくば平成28年度通常総会資料(2016.6.19) 広島: 子育てネットゆめもくば
- 厚生労働省 (2016a) 平成27年度地域子育て支援拠点事業実施状況(子ども・子育て支援交付金交付決定ベース)
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidou-kateikyoku/kyoten_kasho27.pdf>2016.10.31 閲覧
- 厚生労働省 (2016b) 平成26年度地域保健・健康増進事業報告の概況: 地域保健編
<<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/c-hoken/14/dl/kekka1.pdf>>2016.10.31. 閲覧
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局 (2015) 地域子育て支援拠点事業の実施について: 実施要綱 (平成27年5月21日)
<<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidou-kateikyoku/0000103063.pdf>>2016.10.31 閲覧
- 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室 (2007) 地域子育て支援拠点事業実施のご案内 [パンフレット] 東京: 厚生労働省
- 鯨岡岐 (2002) NHK ブックス「育てられる者」から「育てる者」へ: 関係発達の視点から 東京: 日本放送出版協会
- 熊本市 人口動態総覧
<https://www.city.kumamoto.jp/opendata/pub/detail.aspx?c_id=38&id=9>2016.10.31 閲覧
- 熊本市 熊本市のプロフィール
<<http://www.city.kumamoto>

jp/hpkiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=1928>2016.10.31 閲覧
熊本市 熊本市統計情報
<<http://www.city.kumamoto.kumamoto.jp/tokei/content/ASP/Jinkou/default.asp>>2016.10.31 閲覧
熊本市現代美術館 総合案内アクセスマップ
<<http://www.camk.or.jp/information/access/index.html>>2016.10.31 閲覧
熊本市健康福祉子ども未来部子ども支援課 子育てホットステーション街なか子育てひろば（熊本市現代美術館内）
<http://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=5439&sub_id=4&flid=54898> 2016.10.31 閲覧
熊本市健康福祉子ども局子ども支援課
（2015）熊本市子ども輝き未来プラン
2015：平成 27 年度-平成 31 年度子どもが輝くまちくまもとづくり
<http://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=8630&sub_id=1&flid=58420>2016.10.31 閲覧
熊本市美術文化振興財団（2014）CAMK 熊本市現代美術館【パンフレット】 熊本：公益財団法人熊本市美術文化振興財団熊本市総務課（2016）グラフでみるくまもと
<https://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=3945&sub_id=5&flid=88720>2016.10.31 閲覧
村若尚（2015）ごあいさつ 子育てネットゆめもくば 子育てネットゆめもくば特定非営利活動法人子育てネットゆ

めもくば平成 27 年度通常総会資料(p.4)（2015.6.14） 東広島：子育てネットゆめもくば
無藤隆（2008）序章過程と園と地域における子育て支援 無藤隆・安藤智子（編著）子育て支援の心理学：家庭・園・地域で育てる（pp.1-16） 東京：有斐閣
武内珠美（2002）7 章 4 妊娠・出産・子育てをめぐる女性の心理と問題 岡本祐子・松下美知子 新・女性のためのライフサイクル心理学（pp.151-172） 東京：福村出版
若本純子（2008）第 5 章親としての成長，親としての変貌 無藤隆・安藤智子（編著）子育て支援の心理学：家庭・園・地域で育てる（pp.89-105） 東京：有斐閣
吉坂敬子（2016a）「熊本市立街なか子育てひろば」について（2016.03.23） 熊本：熊本市健康福祉子ども未来部子ども支援課
吉坂敬子（2016b）街なか子育てひろば利用状況（H27 年度）（2016.03.23） 熊本：熊本市健康福祉子ども未来部子ども支援課
吉坂敬子（2016c）街なか子育てひろば：運用の中で見えてきた特徴・メリット（2016.03.23） 熊本：熊本市健康福祉子ども未来部子ども支援課
吉坂敬子（2016d）〔参考〕職員研修関係（2016.03.23） 熊本：熊本市健康福祉子ども未来部子ども支援課

A report on practices of community child-care support centers in local cities

TADA Yukiko

Abstract

This study focused on the practices of community child-care support centers in local cities. A field interview survey was conducted on the following child-care support centers; Yumemokuba, which is located within a traditional commercial building in Higashihiroshima City, and Machinaka Kosodate Hiroba, which is located within an art museum in Kumamoto City. From the result of this survey, it was assumed that these two facilities had some similarities such as their support policy and the structures of their users' lounges. In addition, it was suggested that the lounges' structures indicated a relation with high publicness in the establishment place of each support centers.

Keywords:

community child-care support center, local cities, child-rearing